

# 快居の会 だより

快居の会受付 TEL/FAX : 06-6946-6161

〒540-0036

大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエVOID気付

10号記事

- 精神障害者地域活動支援センター「わっと」開設に関わって
- 快居への取り組み～建築士の果たした役割と限界～
- 介護保険による住宅改修など小規模工事にも連携してしっかり取り組もう

## 精神障害者地域活動支援センター「わっと」開設に関わって

佐藤和子/小倉勝彦

■ 身体障害者に比べると、精神障害者の在宅支援策はずいぶん出遅れているようです。『わっと』は、南河内地域で始めて開設された、精神障害者の日常生活支援の基地です。現在、熱心なスタッフがいろいろな生活相談にのったり、夕食サービスをしながら、仲間づくりや地域との交流をめざしています。



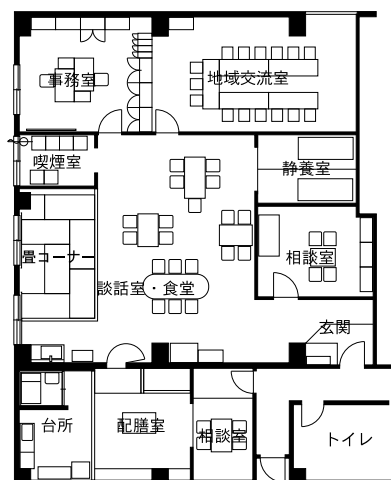
建物外観

■ 開設場所は、近鉄藤井寺駅から徒歩3分程度の便利な商業地域内にある事務所ビルの3階です。冷たい感じの事務所スペースを、仲間がほっとして集まれる場所に改装したいという依頼でした。食堂・談話室だけになりましたが、床をタイルカーペットとし、靴を脱ぐ事にしたのがくつろげる場所造りの仕掛けとして有効だったようです。たまり場としては、窓際に設けた畳コーナーが気に入られていると聞きました。

■ 改装工事予算があまりありませんでした。家族会、まつしの共同作業所、などの設立関係者は、寄付金を集める他、中古の机や椅子をもらってくるなどの工夫をされました。施工業者にも、在庫の材料を利用するなどの協力をしてもらいました。その結果、最終工事費は追加を含めて約300万でした。



食堂・談話室の畳コーナー



「わっと」平面図

### 精神障害者地域活動支援センター 「わっと」

〒583-0027

大阪府藤井寺市市岡 2-12-6 進和ビル 3F

TEL, FAX : 0729 (30) 0733

URL : <http://www.watto.info>

相談用 TEL : 0729 (30) 0609

■ これから育っていく事を楽しみに、種まきに参加したという印象です。自主活動が育ち、「こんなことしたいんやけど、今のままでは使いにくいねん」という注文が来るのを待っています。

### 「わっと」スタッフより

「わっと」は地域の精神障害者の方の日常の憩いの場等の提供を行っています。ある人は他の利用者との会話を楽しんだり、違う人はトランプなどのゲームで遊んでいたり、また、畳スペースで横になりながらテレビを見ている方がいたり、利用者それぞれの目的で「わっと」を利用しています。

ここができて半年、少しずつですが人が生活しているという良い意味で汚れてきています。もっともっと汚れていったらなあと思っています。(上田哲史)



Aさんの日常は、4.5帖、6帖の畳の上で、床座の生活をしています。従ってトイレ、浴室、台所などへ行く時や外出時はいざり移動と必要な個所で手掛かりを見つけてヨッコラショと立ち上がり、伝い歩きをするという生活でした。安全に立ち上がるための要所への手すり取り付けなど、現在の起居様式や生活の仕方を生かし、より安全性を高めることを改造の基本方針としました。

Aさんの希望は、以下の4点でした。

- 1) トイレが狭く、和便器で使用困難なので、洋便器にして使いやすくしたい
- 2) 玄関の上り框の上がり下りを容易にしたい
- 3) 室内歩行のために、床面からの立ち上がりを容易にしたい
- 4) 浴室に捕まるところがなく身体の移動が不安定なので手すりがほしい

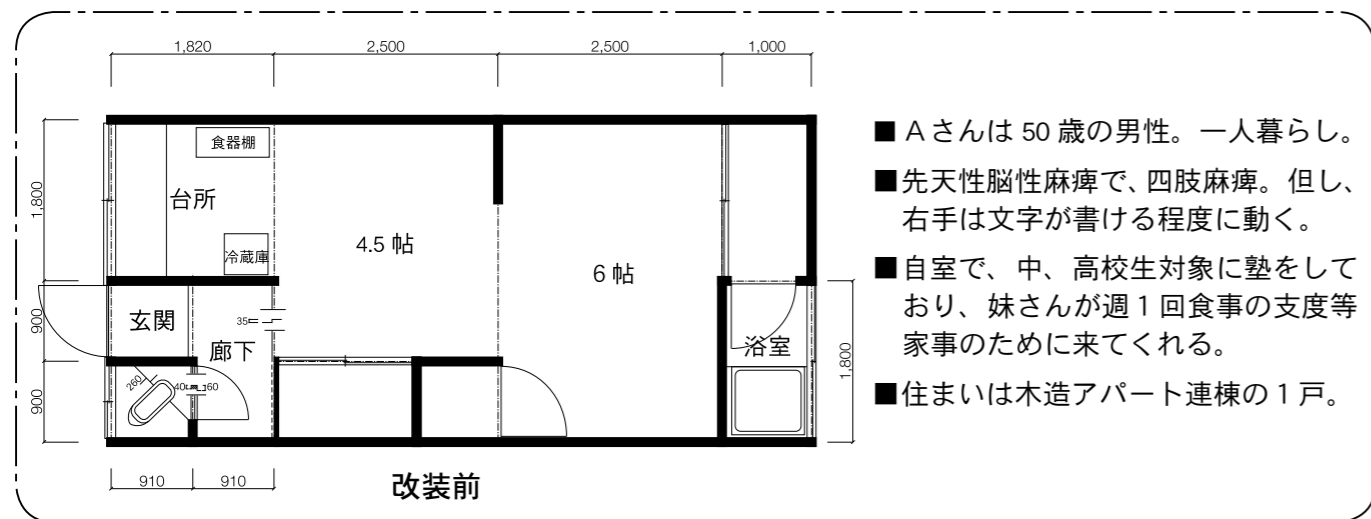
改造の具体的な内容を決めるために、まずは市から派遣されたPTと共に、Aさんに日ごろの室内歩行の様子を再現してもらい、大まかな手すりの取り付け位置や和式便器の洋式便器への取り替え等を決めました。

この方針をもとに工事のための図面作成に取り掛かるわけですが、細かなAさんへのヒヤリングお

よびシミュレーションを繰り返し、以下のように改造を行いました。

- ・玄関前廊下と4.5帖居室との段差の解消、いざり移動時のひざを守るために床材をクッション性のあるものに変更
  - ・トイレへの出入口を、つかまり立ちの時にも使用しやすい長い取手のついたレールなし折れ戸に交換
  - ・洋式便器への取換え、手洗いおよび便器リモコンの取り付け位置をシミュレーションにより決定
  - ・洋式便器～洗面～居室への移動を助けるための手すりの取り付け
  - ・4.5帖、6帖の和室での立ち上がりのための縦手すりの取り付け
  - ・浴室、浴槽へ出入りするための手すりの取り付け
  - ・玄関の上り下りを助ける手すりの取り付け
- 市のPTさんの口頭指示だけで建築士の関わりがなければ、恐らくこのような細部への配慮は不可能であったと考えています。

なお、この事例では工事業者の選定の難しさも経験しました。この点については囲み記事「工事業者について」の項にまとめましたのでお読みください。



- Aさんは50歳の男性。一人暮らし。
- 先天性脳性麻痺で、四肢麻痺。但し、右手は文字が書ける程度に動く。
- 自室で、中、高校生対象に塾をされており、妹さんが週1回食事の支度等家事のために来てくれる。
- 住まいは木造アパート連棟の1戸。

工事業者について

はじめAさんから、Aさんのアパートに出入りしている工務店に依頼して欲しいとの要望があったが、図面の読み方、見積り等住居改善に対して心許ない点が多くあり、市の住宅改造業者のリストから1社を選び依頼した。やはり、初めての工事依頼だったので工事のレベルに多小の不満が残った。工事内容の荒さを原因とする幾つかの点を指摘し、手直しを要求したがこちらの要求レベルまでには至らなかった。浴室の手摺の取り付けについては、業者はタイルの下地の強度の確認をしないまま手摺を取りつけると言い張ったが、下地強度の確認は頑としてやらせた。

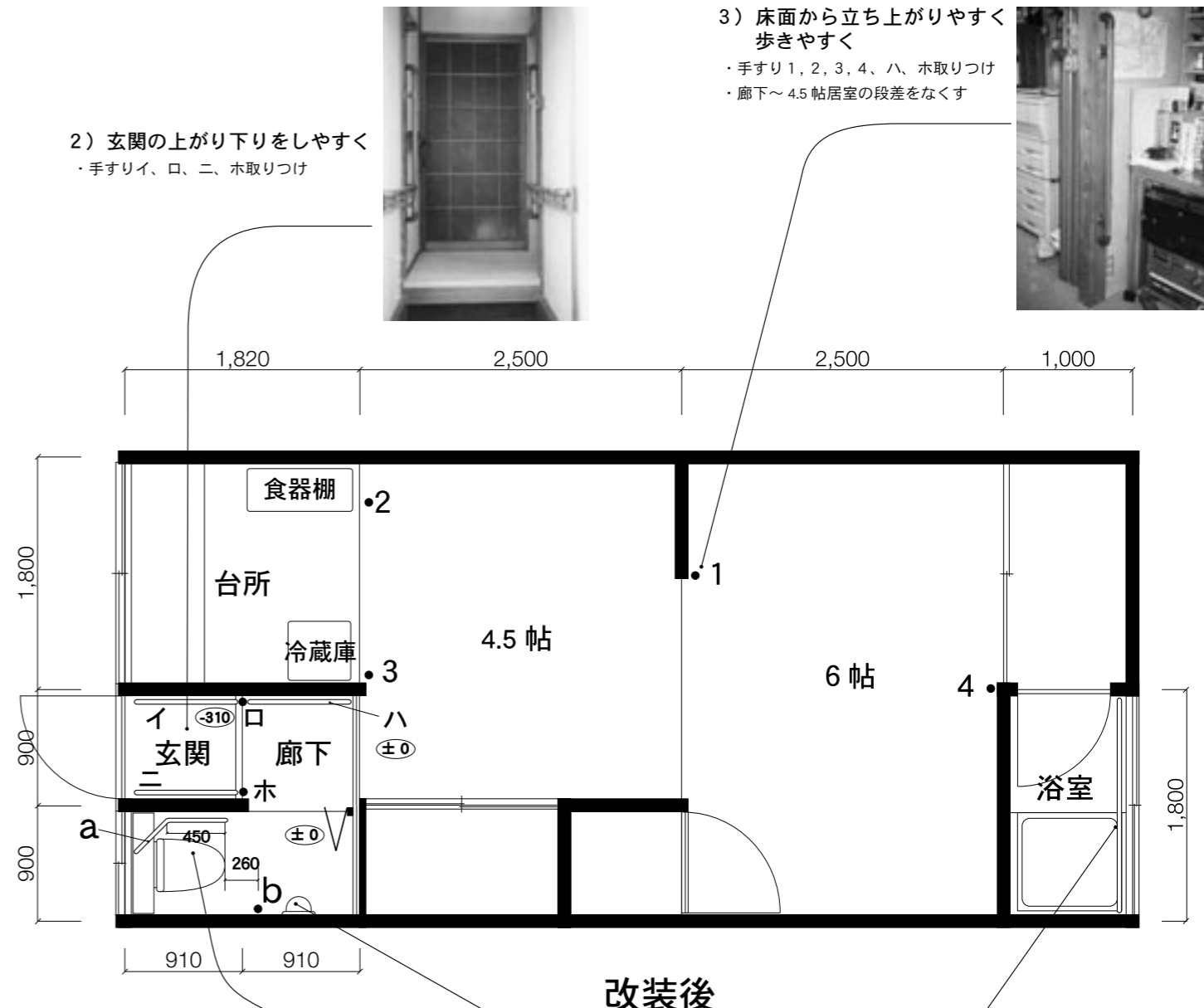
このような小工事といえども経験豊かなきちんとした工事をする業者を見つけるのはむずかしい。市のリストにあるからと言ってかならずしも障害者のための住宅改造の技術水準が高いとは言えない。

Aさんのコメント

トイレの改造を主とした工事を終えてから早1年が過ぎました。20年来の和式のトイレは狭く段差もあり、かがみ込んでの用便は腰痛がある時などは大変だったと言えます誰でも想像できることでしょう。縁あって「快居の会」のご指導で大幅な改造に着手し、トイレというイメージが一変した空間が出現しました。詳しくは私のホームページに紹介していますのでご覧ください。

<http://www.my-a.net/adachi/kaizo.html>

私の仕事上、毎日何人かが来ますが誰もが無意識に手すりを持って出入りしています。そして「楽だからつい持ってしまう」と言います。私は、「どこの家でもいつかは必要になるんだ」と答えます。今後は公共施設の福祉的設備充実から、段差の解消とカドアの仕組みとかの個人家屋の設計・改造が不可欠な時代となるでしょう。毎日の生活の場の個人に合った改造は、身体の危険予防や気づかないストレスの解消にもなっています。まだここも改造したいと欲を出しているこの頃です。



2) 玄関の上がり下りをしやすく  
・手すりイ、ロ、ニ、ホ取り付け

3) 床面から立ち上がりやすく  
歩きやすく  
・手すり1, 2, 3, 4, ハ、ホ取り付け  
・廊下～4.5帖居室の段差をなくす

1) トイレを使いやすく

- ・トイレを広くする
- ・和便器を洋便器に取り替え
- ・手すりa, b取り付け
- ・手洗い器取り付け(ワンタッチ水洗金具付)
- ・大きなリモコン取り付け
- ・トイレットペーパー紙巻器は使用不可なので落とし紙用ボックス作成(Aさんの発案)、取り付け
- ・折れ戸(下部レールなし)



4) 身体を安定して動きやすく

- ・手すり取り付け



## 出前型相談の持ち込み / 多分野の連携による取り組みのお願い

以前は、福医建の多分野の会員が連携して改善に取り組む機会が多くありました。最近では比較的高額の改善事例を快居の会に持ち込まれることはありますが、介護保険の住宅改修費や住宅改造助成の範囲といった比較的小さな規模の改善に、連携して関わる機会が少なくなっているようです。熟練した専門の施工者が育っているとすれば良いことではありますが、多分野の関係者がしっかり連携して取り組むことにより得られることも多いと考えます。

介護保険による住宅改修の問題点についてマスコミにも取り上げられるようになりました。福医建研究会の趣旨からも多分野の会員が連携して介護保険の住宅改修に取り組むことは緊急の課題だと考えます。理事会+運営委員会において、今年度の実践事業として、介護保険の住宅改修にしっかり連携して取り組むことを決めました。介護保険の住宅改修など少ない予算の小規模な住居改善の事例を、会員の皆様から本会に大いに持ち込んでいただき、(大阪ガス福祉財団助成などを財源に、)多分野の関係者がしっかり関わった改善の取り組みにしたいと考えます。もちろん快居の会による出前型相談は無料です。

本会での活動は例会参加のみという会員の皆様、一歩踏み出して連携をしっかり推し進めてください。福医建研究会事務局または快居の会受付 (TEL/FAX06-6946-6161) にご連絡ください。

(特活) 福祉医療建築の連携による住居改善研究会 理事会 / 事務局

TEL/FAX 06-6231-1277

URL : <http://www7.ocn.ne.jp/~fukuiken> Eメール : [fukuiken@eagle.ocn.ne.jp](mailto:fukuiken@eagle.ocn.ne.jp)

(特活) 福医建研究会では、介護保険による住宅改修などの小規模な住宅改造工事が、十分な検討なしに安易に実施されている現状を憂慮して、上記のような呼びかけを2002年7月1日に行っています。また快居の会の相談スタッフを始め、各分野の専門家を無料相談に派遣するための財源確保にも努めています。

会員、会員外を問わず住居改善に関わりのある皆様から、快居の会に要請いただければ、建築士を(必要に応じて他の分野の専門家も)出前型相談、アドバイス業務に無料\*で派遣いたします。対象者と家族の住生活をしっかり考えた改善に、連携して取り組みたいと思います。まずは電話で快居の会にご相談ください。

もちろん高齢や障害のため住まいに困りごとのある方やそのご家族から直接のご相談もお受けしています。

\* 2回までの派遣、相談、アドバイスとその準備作業など、延べ8時間程度の業務と想定しています。より丁寧な対応が必要と考え、設計監理業務委託など有料業務を薦めることがあるかもしれません。有料業務となる場合には、必ず事前に建築士などの相談スタッフが十分な説明をいたします。

## 快居の会受付 TEL/FAX 06-6946-6161

下記ホームページにもアクセスして下さい。福医建研究会、快居の会の紹介をしています。

URL : <http://www7.ocn.ne.jp/~fukuiken>

### 福祉・医療領域と連携した私たちの仕事

- |   |                                     |
|---|-------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 住居改善相談、設計、監理   | <input type="checkbox"/> まちづくり調査    |
| <input type="checkbox"/> 住宅・施設の計画、設計、監理 | <input type="checkbox"/> 相談会、研修会の企画 |

〒540-0036

大阪市中央区船越町 1-6-2-702 アトリエV O I D 気付

(特活) 福祉医療建築の連携による住居改善研究会 住居改善実践事業部 快居の会

### 快居の会メンバー

明石 友宏 (双葉都市設計工房)	今井 俊夫 (今井環境建築事務所)	上田 猛 (上田猛建築事務所)
小倉 勝彦 (アトリエV O I D)	川上 昌宏 (デビックス建築設計事務所)	佐藤 和子 (佐藤建築事務所)
馬場 健一 (馬場健一建築研究所)	馬場 昌子 (関西大学工学部建築学科)	福田 由利 (アトリエ・ドゥ・フクダ)
松村 優 (創造福祉空間研究所)	村山 みのり (住居科学ジャパン)	山口 敏充 (山口計画事務所)